

村上和帆 trombone
藤原亜利奈 piano
福盛進也 drums

2026 05月10日 (日)

開場 14:30

開演 15:00

(2ステージ入替無) (1drink=600)

MC=3700+2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



藤原亜利奈

3歳よりピアノを始め、桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学にてクラシックピアノを学ぶ。2009年ショパン国際コンクール in ASIA 入賞、2010年JPTA入賞及びフレッシュコンサートに出場。ヨーロッパ国際ピアノコンクール in JAPAN 銀賞、2011年日本ベートヴェンコンクール第3位入賞。卒業後、ジャズピアノに興味をもち渡米。パークリー音楽大学、マンハッタン音楽院大学院のジャズパフォーマンス専攻を卒業。Unsigned Only Music Competition セミファイナリスト。ジャズピアノをJoanne Brackeen, Elio Villafranca, Joel Rossに師事。2023年、自身のアルバムである『Neon』をリリース。

村上和帆

村上和帆ラーゼアンサンブルを主宰。ジャズセブテットに弦楽カルテットを加えた13人の演奏集団で、ジャズのダイナミクスと弦楽器が織りなすリリシズムが共存した現代的な音楽を展開する。2021年にゲストにドラム福盛進也を迎え、「記憶の海」をリリース。2022年には初のリーダーアルバム「Growth Rings」をリリース。5歳からピアノを始め、甲南中学校入学と同時にプラスアンサンブル部でトロンボーン、ビッグバンドジャズを始める。同部在籍中にはコンサートマスターを務め、国際ジャズフェスティバルステラジャムにて優勝、Japan Student Jazz Festivalではソリスト賞を受賞。同志社大学商学部入学後、同志社大学 The Third Herd Orchestra や慶應義塾大学 Light Music Societyにて活動。同志社大学 The Third Herd Orchestra では第5位(2016年)、第6位を受賞した。2017年はコンサートマスターを務めた。慶應義塾大学 Light Music Society では第3位(2018年)を受賞。同大学卒業後は関西圏でジャズトロンボーン奏者として活動し、コンボでの演奏や、ミュージカルでの演奏のほか、広瀬未来ジャズオーケストラや横尾昌二郎ビッグバンドなどのビッグバンドにも参加。2022年、活動の拠点をニューヨークに移し、演奏や創作活動を行う。ニューヨーク市立大学 Queens College, Aaron Copland School of Music, Jazz Performance 科にて修士号を取得。2025年、活動の拠点を日本に移す。トロンボーンを中井信輔、宗清洋、磯野展輝、広瀬未来、池本茂貴、John Yao, Ryan Keberleに師事。作編曲を李祥太、Christopher Zuarに師事。(敬称略)兵庫県神戸市生まれ。

福盛進也

1984年1月5日、大阪市阿倍野区生まれ。15歳でドラムを始め、17歳の時に芸術高校にて音楽を学ぶために単身で渡米。その後、ブルックヘブンカレッジ、テキサス大学アーリントン校を経て、パークリー音楽大学を卒業。10年間のアメリカでの活動後、2013年に拠点をミュンヘンに移し欧州各国で活動を開始。2018年に自身のトリオで、ドイツの名門レーベル ECM から日本人二人目となるリーダー・アルバム『For 2 Akis』を世界リリース。その後、トリグヴェ・サイム (ts)、ウォルター・ラング (pf) との新たなトリオの他、リー・コニッツ (as)、ミロスラフ・ヴィトウス (b)、フローリアン・ウーバー (pf)、ソングェ・ソン (ts)、山下洋輔 (pf) など様々なアーティストとの演奏活動を行う。2020年には自身のレーベル nagalu を立ち上げ、参加アーティスト総勢12名のアルバム及びショートフィルム『Another Story』をリリース。翌2021年には第二のレーベル S/N Alliance も設立し、プロデュース業や録音のディレクションにも力を入れている。更には、日韓アーティストを中心としたプロジェクト『EAST MEETS EAST』を発足し、欧州、日本だけに留まらず、アジア全体のジャズの発展に向け新たな風を巻き起こしている。独特で繊細なシンバルワーク、そして空間を自由に生み出し色とりどりに展開する演奏は世界中でも一目を置かれ、また作曲家としても高い評価を得ている。ダイナミクスの幅が広く詩情的なプレイを得意とする。